



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帶性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。

2010.3.20 Vol.123



特集

祝 卒業

卒業式 学長式辞	1
送辞・答辞	2
学生表彰(学長賞)	3
ベストペーパー賞を受賞	3



ACCREDITED
2007.4~2014.3



文化創造で世界をリード

平成21年度卒業式 学長式辞

福山大学 学長 牟田 泰三

皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご列席のご家族の皆さん、本日はまことにおめでとうございます。

これから社会へ巣立っていく卒業生の皆さんへ私は「文化創造で世界をリードしよう」というお話しをして、はなむけの言葉とさせて頂きたいと思います。

かつて、私などが若かった頃ですから、もう40年以上も前のことでしょうか、こんなことが言われていたものです。日本は先進国の物真似ばかりしていて、独創的なものを創り出すことが出来ない。先進国で生み出されたものを真似し、それを少しばかり応用して安く製品化して世界中に売って歩く商人でしかない。

ところがどうでしょう、この物真似には独自の工夫が加えられるようになり、物作りが精緻化され、日本はむしろ物作りで世界をリードするまでになりました。そうなってくると、物真似であったものは、新たな独創を生み出し、日本でしか開発できないようなものが生み出されるようになってきましたし、物作りはより一層高度化して、日本の匠の技として他の追随を許さないまでになっています。

一方、多くの途上国が、昔の日本をお手本にして、日本と同じような発展の道をたどろうとしています。こうなると、以前と質的に同じことを繰り返していくは、日本がこのまま物作りで世界一を続けることはより一層困難になります。

物作り世界一の地位を守り且つ高めていく努力はもちろん今後も続けていかねばなりません。しかしながら、将来の日本のあり方を考えた時、そればかりではなくて、日本独自の新たな道を模索しておくことも大切なことです。

私は、来るべき時代に日本が世界に貢献できる道の一つは、日本が独自の文化で世界をリードすることだと思っています。

もっとも、日本独自の文化というと、すぐに歌舞伎とか芸者とか浮世絵とかをイメージしてしまって、思考停止に陥ってしまう人も多いかと思われますが、私がここで取り上げたいのはそういうことではありません。これらの伝統的な文化も、確かに日本独自の文化には違いないのですが、はるかな過去の遺産に過ぎません。わたしは、現在ダイナミックに生み出されつつある日本の文化について述べたいと思うのです。新たな日本文化の創造が、将来の世界をリードするに違いないと思うからです。

ところで「文化」とはいったい何でしょうか。辞書などを引くと「学問や芸術など、人間の心の働きによって創り出されたもの」と書かれています。この定義に従ってまわりを見まわしてみると、将来世界をリードするような芽が日本でいくらでも生まれつつあるように思われます。

現代の日本が、世界をリードする文化創成の地になりつつあることに気が付いていない人は、案外、多いのではないかでしょうか。文化的には日本はまだまだ一流ではないと言われているようです。私はそうではないと思います。

学術文化のバロメーターとして、ノーベル賞を考えてみましょう。日本人のノーベル賞(自然科学分野)受賞者の数は現在12名(文学、平和の分野を加えると16名)で、米国の227、英国の75、ドイツの68に比べるとまだ見劣りしますが、アジアではダントツで他を圧倒しています。また、21世紀に入ってから(2001年以降)の実績では、日本は6人と、米英に続く第3位です。すなわち、日本は、21世紀において学術文化を牽引する国としては、すでに十分にリーダーシップを発揮しており、いまや学術文化の世界の拠点となりつつあると言えると思います。ノーベル賞受賞者数はほんの一例に過ぎません。いろいろな分野の文化面での日本人の活躍は近年目に見えて活発になっ

ていると思います。

近年、米国などで、日本人のやることはクールだ(かっこいい)と言われているようです。何がかっこいいのかは定かではありませんが、文学、スポーツ、芸能面で、確かに昔の野暮ったさが抜けて、私たち熟年者から見てもかっこいいように思われます。

それと関係があるかどうかはわかりませんが、日本のアニメ文化は世界を席巻しているようです。日本では、20年ぐらい前に漫画ブームがあって、厚さが5センチほどもある漫画週刊誌を若者達が読みあさっているのを見て、私は大変苦々しく思っていました。ところが、今になって思うと、この時期に、アニメの新しい文化が育まれていたのだったと気づくのです。今や日本のアニメ文化は完全に世界をリードしています。アニメ文化は秋葉原文化とも連動し、日本人のやることはクールだということになるのでしょうか。

今後期待できそうな文化創造の分野はどんどん広がっていくと思われます。いろいろな学問分野で切り開かれていく新領域は、これから文化創造の宝庫となるでしょう。特に生命科学などの学術分野は、世界をリードし始めていると言えるでしょうし、文芸面でも多彩な人材が育ち、これらの人々が切磋琢磨することによって、世界をリードする文芸文化が花開くかもしれません。

福山大学の教育理念である全人教育を受けた皆さんは、これから社会に出て、単に知識を活用して物を作るだけでなく、自ら磨いた心をより高め、新しい文化を創造することに大いに貢献してほしいと思います。

卒業生の皆さん、皆さんこれから活躍を心から願って式辞を終わります。

平成22年3月20日

送 辞



平成22年3月20日
福山大学在校生総代
経済学部 経済学科
黒川 知子

暖かな春の日差しの中で、ここ三蔵の丘も桜咲く季節になりました。卒業生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお慶び申し上げます。

皆様は入学されてから今日まで、豊かな教養と確かな専門知識を習得するために日々努力されて来られました。今日ここに、学位記を手にされる喜びはひとしおのことだと思います。また多くの先生方や友人とのふれ合い、卒業

研究に費やされた日々など、さまざま思い出を振り返り、今改めて胸を熱くしておられることと思います。

先輩の皆様方には、勉学はもちろんのこと、三蔵祭やサークル活動など様々な場面で貴重なアドバイスをいただきました。そこで一番に感じたのは、知識や経験だけない人としての大きさでした。悩みがあれば耳を傾けていただき、挫折しそうな時には激励して下さいました。常に私たちの一歩も二歩も先を考えておられたと思います。私ども在校生は、皆様方からお教えいただいたことを心の糧とし、今後の人生の中で大切に生かし、後輩たちにもしっかりと伝えていきたいと思います。

これから皆様がご活躍される社会は、まさに激動の時代を迎えてると思います。民主党による政権交代が行われ、コンクリートから人へというスローガンの下、子ども手当、高校の授業料無償化など予算配分が大きく見直される中で、人々の生活は分岐点に差し掛かか

ろうとしています。また、日本を代表する自動車関連の企業は、リコール問題で安全責任を追及されていますが、高い技術を誇ってきた日本企業にとって重大な警鐘となっている気が致します。

このように厳しい経済社会であればこそ、皆様が本学で身につけられた幅広い教養と深い学識を十分に發揮され、逆風の中でも福山大学で培った誇りを思い起こし、希望を持って笑顔でチャレンジし続けていかれ、それが、備後や広島のみならず日本の発展につながる立派なご活躍となりますことを心より祈念いたします。

私たち在校生は、皆様が築かれ、守ってこられた伝統と学風を継承し、三蔵五訓の理念を基本とし、母校福山大学の更なる発展のために一層の努力をしていきたいと思っておりますのでご安心下さい。

最後になりましたが皆様のご健康と進まれる前途に幸多からんことをお祈りいたしまして送辞といたします。

答 辞



平成22年3月20日
第32回 卒業生代表
工学部
機械システム工学科
口船 聰

本日は、私たち卒業生のために、第32回学位記授与式、並びに第30回大学院学位記授与式を盛大に挙行して下さり、誠にありがとうございます。総長宮地尚先生、学長牟田泰三先生をはじめ、諸先生方、職員の方々、ご来賓やご臨席を賜りました皆様方に、卒業生一同心より御礼を申し上げます。先程は、学長牟田泰三先生より、温かい訓示と激励のお言葉を賜り、また、在学生からは、温かい励ましの言葉をいただきまして、卒業生一同を代表し、厚く御礼を申し上げます。これらの言葉を胸に刻み、これから的人生を、情熱と自信を持って踏み出していきたいと思います。

振り返れば、今から4年前、これから始まる大学生活に、期待と不安で溢れていた自分がつい先日のように思い出されます。大学では、決まった机があるわけでもなく、講義を聴いている人の顔ぶれや年齢も様々で、高校までとは

違う、新しい生活に慣れるまでには、ほんの少しだけ時間がかかりました。しかし、卒業を迎えた今となっては、大学生活のそんな側面は非常に魅力的であるように思われます。

大学では、機械工学を専攻し、自動車整備士免許の取得にも励みました。講義・実習では、習得しなければならない知識は膨大で、自動車の部品も多種多様と、最初は、何から学んでいけばよいのか戸惑いました。しかし、機械工学・自動車工学を少しづつ学んでいくうちに、最初はバラバラであった知識が、自分の中で少しづつ統一化されていくことを感じ、それと平行して様々なことに学問的興味を抱くようになりました。

研究室のゼミでは、毎週、研究成果の発表・議論を繰り返し、時には各々の意見の食い違いから、ぶつかり合うような苦い経験もしましたが、先生から厳しくも温かいご指導をいただけたことで、それを乗り越えることができました。先生の論理的考え方方に触れ、また、先輩方の経験あるご発言から様々なことを学ぶことができ、自分自身、大きく成長できたと強く実感しております。

私たちはこの4年間で様々なかけがえのない体験をして参りました。日々の勉学や学校行事、サークル活動といった時間を諸先生方や学友たちと共に過ごしましたことは、私たちの今後の人生における貴重な財産となります。この福山大学で得た経験をこれからどう活

かせられるか、と考えますと胸が躍る思いに駆られます。しかし、いざ卒業となりますと、将来への第一歩を踏み出す希望を抱くと共に、一抹の寂しさも感じます。

私たちは、これから自分たちが選んだ道をそれぞれが歩んでいきます。この世界的不況の社会の中を歩んでいくことは、私たちにとって、険しい茨の道となるでしょう。しかし、私は試練なくして、人は成長できないと考えております。人は試練を乗り越えることにより、今の自分から一步前進できるのです。この不況の世の中を悲観せずに、自分たちが成長するためのチャンスだと前向きに捉え、それに立ち向かい、乗り越えていく覚悟であります。福山大学で学んだことに誇りを持ち、全力を持って、広く社会で活躍していきたいと思います。

最後になりましたが、未熟な私たちにいつも適切な助言を与えて下さった諸先生方、また様々な場面で私たちを支えて下さった職員の皆様に、改めて御礼申し上げるとともに、大学卒業を迎えた今日まで私たちの成長を見守り続けてくれた家族に感謝致します。諸先生方、並びに、職員の皆様方のご健康とご多幸を、更には、在学生の皆様のより一層のご活躍を心よりお祈りし、そして、我が学び舎、福山大学のさらなる発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

平成21年度 学生表彰(学長賞)

文化部門 人間文化学部



メディア情報文化学科 住元 謙太

福山大学には、映像作品の企画制作、地域と連携した記録映像の作成、ラジオ番組のインターネット配信などを精力的におこなっている学生サークル「Good Jam Factory」があります。その立ち上げに尽力し、ACジャパン主催「第5回公共広告CM学生賞」優秀賞、「五分間ノ尾道物語り」映像コンテスト佳作などの業績を挙げた住元君が、学長賞を受賞しました。

映像制作において才能を発揮しただけでなく、学友との協調性に富み、つねに学科の活動やサークル活動の中心

にいる学生として、厚い人望を集めてきました。大学内で後進の指導に熱意を持って取り組むとともに、高校生以下の子どもたちを対象とする映像制作ワークショップでたびたび講師を務めるなど、指導者としても大いに活躍しました。

住元君は卒業後、福山の広告会社に就職します。4年間で学んだ知識や技能を、これからも地域の発展のために活かしてもらいたいと願っています。

メディア情報文化学科 講師 飯田 豊

スポーツ部門 工学部

大本君は、転倒での活躍が認められ学長賞を受賞しました。転倒は沖縄空手を基に作られた武道で、バック転・バック宙などがあるアクロバティックな武道です。福山大学転倒同好会の部長として部員をまとめるとともに、全国学生大会の男子個人法形競技で二連覇を達成しています。この活躍が評価され、日本代表として、平成21年8月に広島で開催された第5回世界転倒

情報処理工学科 大本 雄介

選手権大会や第9回国際転倒親善優勝大会にも出場しています。このように彼は、小学生の時に転倒に出会ってからたゆまぬ努力を続け、全国学生大会制覇、世界大会への日本代表といった輝かしい成果をあげています。



スポーツは頂点を目指すことが大

切だ、頂点を目指す過程での経験がレベルアップにつながるを考えている彼のことですから、社会に出てからも、さまざまな困難にも立派に立ち向かっていってくれるものと信じています。

情報工学科 教授 千葉 利晃

佐藤 淳 講師、日本遺伝学会でベストペーパー賞を受賞

2009年9月に信州大学で日本遺伝学会第81回大会が開催され、生物工学科佐藤淳講師の口頭発表がベストペーパー賞に輝きました。歴史ある日本遺伝学会大会において全169演題の中から11演題に与えられた賞ということからも、今回の受賞の価値の高さがうかがえます。受賞演題は「超行列法における不完全なデータが系統推定に与える影響」ですが、その内容を理解するには若干の解説が必要でしょう。

昨今、「生物多様性」という言葉が一般的にも注目されつつありますが、この生物多様性は個々の生物種が持っている固有な特性の集合体です。個々



の生物種が固有のは、生物が偶然と必然の影響を受けながら時間と共に変化(進化)するからです。その変化は遺伝物質であるDNA上に刻み込まれており、DNA上に残された情報を調査・分析することで、時間を遡り生物間の類縁関係を探ることができます。

生物の類縁関係に関する研究は、これまで少ない生物種と遺伝情報に基づく比較的小規模なものでした。これは世界中に生息する様々な生物種を網羅的に収集することが困難なことに起因するようです。佐藤講師はこの問題を解決するために、巨大な情報を

蓄えた既存のDNAデータベースに着目しました。つまり、利用可能な全DNA塩基配列を収集し、そこに含まれるより網羅的な生物種の遺伝情報に基づいて類縁関係を解析することで、信頼性の高い大規模な系統推定が可能なことを示したのです。系統解析における小規模研究を大規模研究へと飛躍させる道を切り開いたという意味で大きな意義があり、今後の研究の発展を大いに期待させる研究成果です。

一方、佐藤講師によると、より精緻な系統推定を行うには莫大な量の計算をコンピュータで行う必要があるので、コンピュータクラスタを駆使した解析が必須になってくるとのことです。

生物工学科 教授 山口 泰典

編集後記

今年度の卒業生は、空前の就職難にあたり社会における席の確保に困難を極め、教職員もその指導に苦心しましたが無事学生たちを送り出すことができました。今後の活躍を祈念し、祝卒業号をお送りします。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL (084) 936-2111 FAX (084) 936-2213